


各委員の活動を終えての感想


委員名等	感想
	<p>第6期まちづくり研究会は、平成28年の年末から約1年間研究を進めてきました。最初は、そもそも「まちづくり」とは一体何なのか、また、まちづくりの観点から、いまの小矢部市に必要なことは何なのか、皆で議論を重ねました。実際に、小矢部市には、まちづくり活動を行っている団体が多数存在します。さらに町内行事等も多く、年中皆が忙しそうにしており、小矢部市民には息つく暇がないような印象を受けます。近年、まちづくりを考える場合、様々なイベントの開催企画や、ゆるキャラの売り込み、B級グルメの開発等が主流だったように思います。しかしながら、我々も同じような方向で研究を進めても、市民の負担を更に増やすだけで、本当により良いまちを創ることはできないと考え、今回はもっと違ったアプローチを検討することになりました。</p> <p>このような議論のなかで、市民一人ひとりがもっと幸せに暮らすことができるまちづくりについて研究しようと、我々は考えました。小矢部市民がもっと地元へ愛着を持てるにはどうしたらよいか、そして市外への人口流出を食い止めるには、どのようなまちづくりが必要か、議論を重ねた結果、「石動駅周辺の開発計画」と「新メルヘン戦略」へ行き着きました。</p> <p>研究を進める中で、6つの先進地へ視察に行きました。視察先の多くは、地方自治体（市役所）でしたが、先進的な取り組みを行っている自治体の職員は、とても前向きな考えを持っており、長期的な視野で戦略的にまちづくりを進めていることが印象的でした。また、そのような自治体では、民間のノウハウや資金を十分に活用し、官と民が連携してまちづくりを行っていました。先進地の視察では、行政が明確なビ</p>
<p>かたやま しゅんすけ 片山 俊介</p> <p>座長</p>	


ジョンを示し、強いリーダーシップを発揮することで、民間も含めまち全体が纏まり、戦略的なまちづくりができることを学びました。

今回の研究を通じて、私自身、普段関わりを持つことのなかった委員との交流を深めることができました。様々な議論を重ねることで、小矢部市が抱える問題点を共有することができました。これまでの小矢部市のまちづくりに足りなかったのは、やはり長期的なビジョンと戦略だと思います。これが、隣接する砺波市や津幡町と比較し、まちの発展に遅れが生じた原因と言えるでしょう。これからは、石動駅周辺の再開発や、新メルヘン戦略を展開することで、もっと戦略的にまちづくりを進めていくことが重要な課題になります。

まちづくり研究会はこの先も続きますが、より多くの市民に参加していただき、行政と民間で「協働のまちづくり」を進め、小矢部市のまちの魅力を高めていただきたいと思います。皆さま、ありがとうございました。




委員名等	感想
	<p>初めてまちづくりと聞いたときは、あまりにも抽象的すぎて漠然としていましたが、メンバーとたくさんの会議を開き、やり取りや勉強していくうちに方向性が定まり、小矢部市を魅力的で住みよいまちにしていきたいという気持ちが大きくなっていきました。</p>
<p>あずま ひでたか 東 英隆</p> <p>副座長</p>	<p>また、先進地視察として、石川県、福井県、岐阜県、滋賀県に行き、小矢部市に大変参考になるまちづくりの形を目の当たりにしました。それぞれ方向性は違うが、自分たちのまちを良くしていきたいという思いが伝わってきました。今まで研究したことが実行されれば大変うれしく思います。小矢部市まちづくり研究会の6期生として1年半異なる業種の方と小矢部市を良くしたいという同じベクトルに向かって活動できたことは、これからの仕事に大変役立つものであると思います。</p>


委員名	感想
	<p>商工会青年部から出向させていただき、他団体の方々は顔見知りでしたが若い市役所職員の方とはあまり面識がなく、まちづくりについての考え方や情報を共有できる貴重な経験をさせて頂くことができました。テーマの選定では、様々な意見が出たことと、私自身、取り組んでみたいことが多すぎて、メンバーの皆様を振り回してしまったと反省しています。会議や視察、報告会など、約1年半の活動はどれも楽しく、また楽しい時ほど良いアイデアや想像力が生まれていたように感じました。</p>
<p>しのおか しろう 筱岡 志郎</p>	<p>第7期以降のまちづくり研究会でも、より多くのメンバーで、より楽しく活動していただき、若者ならではの提案が小矢部市活性化の一助となるよう期待しています。</p>


委員名	感想
	<p>今回、私は企業協会からの推薦ということでまちづくり研究会に参加させていただきました。研究会では議論を重ねて、『現在 小矢部に住んでいる市民がより幸せになる』ことを最終目的として掲げました。流入人口も大切であるが、現在小矢部に住んでいる市民が小矢部を誇りに思うまちにするためにどのような活動を行っていくか時間をかけて議論しました。</p>
<p>まえだ まこと 前田 誠</p>	<p>私の班活動のテーマは主に石動駅周辺の開発について、七尾市やかほく市などの近隣の地域の現状を把握することから始めました。回を重ねる事に小矢部市役所の職員や他の団体のメンバーと議論を重ねることで様々な意見交換が出来ました。</p> <p>私たちが中間報告で市長に報告した際に、「大変参考になりました。是非持ち帰り第7次総合計画にいかします」とのお言葉を頂いた際には嬉しいと共に発言や活動に対する責任を痛感しました。その後は県外視察や、市役所からのヒアリング等より実行性のあるものにするために様々な視点からメンバーで意見交換を行いました。</p> <p>研究会や視察に全て参加することは出来ませんでした。最後はまちづくり研究会の提言として再び、市長や市役所の幹部の方に説明会を行うことが出来ました。普段は小矢部に住まいながらも仕事や青年会議所の視点からしかまちづくりを見ていませんでしたが、市の方向性や研究会のメンバーの小矢部に対する熱い想いを聴き、自分の活動の刺激になりました。また、他の企業の方の仕事の取組みや活動についても幅広く知ることが出来ました。</p> <p>小矢部市ですっと続いているまちづくり研究会に貴重な機会を与えていただいた小矢部市、そして同期として</p>

	<p>まちづくり研究会を共に過ごした市役所の皆さんをはじめ、メンバーには感謝しております。</p> <p>今後はまちづくり研究会の提言が市にどれだけ反映され、私たちの住む小矢部がより住み易いまちになるように期待しながら応援していきます。</p>
--	--





委員名	感想
	<p>まちづくり研究会では、改めて住んでいる小矢部市のことを考える契機を与えて頂きました。メルヘンガチャポンや、行政スマホアプリなどアイデアを出しても、他の自治体で既に取り組んでいることがたくさんあり、またそのような先進的な取り組みをされている自治体に視察にいき多くのことを学びました。</p>
<p>はやし のぼる 林 登</p>	<p>また、市役所の職員の方からの意見が具体的かつ実践的でとても参考になりました。もっともっと、市役所と民間、市民で、連携した街づくりが行われれば、きっと今よりもっともっと素敵な街になると思います。期待しております。この度は、多くの皆様のご支援を賜ることで、最後まで任期を全うすることができました。誠にありがとうございました。</p>


委員名等	感想
	<p>OBとして2度目の委員となり、前回とは市に対する要望や求められている課題に変化を感じました。委員の学びの深さと市への期待を感じるとともにまちは生きているのだということに気がきました。</p> <p>魅力のある町はそこに住む市民が町を好きでなければなりません。無関心では何も生まれません。活性化のための仕掛けもありながら、市民が関心を持ち 市民が反応し、市民自ら町のために動きだすことが理想です。そのために必要なのは、モノや情報の前にやはり人の力です。今回携わることが出来、委員の声や姿勢を見てきて改めて、まちづくりとは人づくりだと学びました。良い経験をさせていただきありがとうございました。</p>
<p>たけべ よしこ 武部 佳子</p> <p>監事</p>	

委員名等	感想
	<p>私は、3期生としてもこの「まちづくり研究会」に携わらせていただき、今回の6期生ではOB委員として、サポーター的な立場で参加させていただきました。</p> <p>まちづくりのアイディアは、スマホアプリの活用、特産品自販機、メルヘン建築のカプセルトイ、ダビンチミュージアムのリノベーション、石動駅周辺開発、新メルヘン戦略など多岐にわたり、聞いているだけでも非常に楽しく、わくわくさせていただきました。小矢部市の今後のまちづくりについて、次代を担う方々との議論に参加させていただいたことは何よりの財産になったと思います。皆様どうもありがとうございました。</p>
<p>まつだ みつひろ 松田 充弘</p> <p>監事</p>	



委員名	感想
	<p>今回、まちづくり研究会のメンバーとして活動してきた中で、「まちづくり」というものを深く考える良い機会となりました。先進地視察では駅と公共施設、民間が協力してまちづくりを行っており、魅力的なまちになっていました。報告会では今後の小矢部市の発展にも繋がる良い提案が出来たと思います。</p>
<p>かわい しょうへい 河合 亮平</p>	<p>研究会のメンバーは市役所職員のみではなく、さまざまな業種の方々に構成されており、市役所の仕事を別角度から見られたことも大変勉強になりました。</p>

委員名	感想
	<p>まち研メンバーとして活動させていただき、小矢部市について、また、小矢部市民が幸せになるためにはどうすればいいかを考える貴重な経験となりました。最終的には駅周辺開発とメルヘンの2つのテーマに絞り研究しましたが、何をテーマとするかを決める段階においても本当に多くの意見が出され、その一つ一つが小矢部市をより良くしていくものばかりでした。</p>
<p>いしはら ゆきこ 石原 有紀子</p>	<p>メンバーの皆さんの柔軟な発想や考え方には圧倒されるばかりで、一緒に研究というよりは勉強させていただいたように感じます。このまち研での経験を今後どう活かせるか、自分には何ができるのか考えていきたいと思っています。メンバーをはじめ、ご協力いただいた方々に感謝しています。ありがとうございました。</p>

委員名	感想
	<p>まちづくりとはいったい何なのか、全く分からないまま活動がはじまり、単純にほかの自治体の事例を参考にするだけでは上手くいかないということが分かりました。研究を重ねていくうちに、小矢部に住む人が幸せになるようなまちづくりをしていくことで、より良いまちになっていくのだと思いました。</p>
<p>しばた みほ 柴田 美穂</p>	<p>まちづくりという観点から自分が働く小矢部のことを見つめることができ、また、他の委員らの職業や立場の異なる、全く違う視点からの意見やまちづくりへの姿勢にたくさん学ぶものがありました。今後はこの活動で学んだことを活かして業務に取り組みたいと思います。</p>

参考資料の提供先一覧

- ・ 石川県かほく市 (<http://www.city.kahoku.ishikawa.jp/www/>)
- ・ 石川県七尾市 (<http://www.city.nanao.lg.jp/>)
- ・ 岐阜県多治見市 (<http://www.city.tajimi.lg.jp/>)
- ・ 岐阜県大垣市 (<http://www.city.ogaki.lg.jp/>)
- ・ フージャースコーポレーション (<https://www.hoosiers.co.jp/>)
- ・ 砺波市 (<http://www.city.tonami.toyama.jp/>)
- ・ 富山市 (<http://www.city.toyama.toyama.jp/>)
- ・ 射水市 (<http://www.city.imizu.toyama.jp/>)
- ・ 株式会社黒壁 (<http://www.kurokabe.co.jp/company/>)
- ・ 滋賀県長浜市 (<http://www.city.nagahama.lg.jp/>)
- ・ 福井県大野市 (<https://www.city.ono.fukui.jp/>)
- ・ 富山県総合デザインセンター (<https://www.toyamadesign.jp/>)
- ・ ムッチーズカフェ (Mucchi'sCafé) ～大人のための絵本カフェ～
(<http://mucchiscafe.web.fc2.com/>)
- ・ 富山市立大沢野幼稚園 (<http://swa.toyama-city-ed.jp/>)
- ・ 射水市大島絵本館 (<http://www.ehonkan.or.jp/>)
- ・ 兵庫県淡路市 (<https://www.city.awaji.lg.jp/>)
- ・ 福岡県芦屋町 (<http://www.town.ashiya.lg.jp/>)
- ・ 高知県 (<http://www.pref.kochi.lg.jp/>)
- ・ まちづくりネットワーク NPO法人TOMネット
(<http://tomnet.la.coocan.jp/>)

(順不同)